

EUSI メールマガジン Vol. 054

「情報技術の発展と国境管理の今後」(堀井里子)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 039】

「情報技術の発展と国境管理の今後」

堀井里子 (国際教養大学国際教養学部講師)

欧州連合(以下、EU)は、国境における出入国審査を廃止したシェンゲン・エリアをその域内に構築する一方、非EU加盟国とを隔てる域外国境では「ヨーロッパ要塞 Fortress Europe」とも揶揄されるような厳しい審査を行っている。

しかしながら、EUは外部から来る全ての者に対して高い壁を築いているわけではない。むしろ入国希望者が有する安全保障上のリスクの高低によって壁の高さを変えている、といった方が適切であろう。

こうした極めて選別主義的な国境管理手法を可能としているのが、バイオメトリック(生体認証技術を含む最先端の科学技術である。2013年2月に欧州委員会が発表した政策案「スマート・ボーダー・パッケージ」は、科学技術を最大限に活用する近年の傾向をさらに強調した内容となっている。

スマート・ボーダー・パッケージは、EU(およびシェンゲン)加盟国以外の国の国籍者を対象として、シェンゲン空間への出入国記録EU全体で一元的に管理する「出入国システム規則案 (Entry/Exist System。以下、EES)」および、事前に審査を受け問題がないとみなされた旅行者の入国手続きを簡素化する「登録済み旅行者プログラム案 (Registered Traveller Programme。以下、RTP)」という二つの計画案からなる。

EESは、旅行者の出入国日時・場所やパスポート情報に加えて全ての指の指紋情報を収集する。EU側にとってEESを運用する最大の利点は、旅行者が合法的に滞在できる期間を自動的に算出できることであり、これにより滞在期限を過ぎても出国記録がない人々、いわゆるオーバーステイヤーを容易に見つけ出せることである。これがEES導入の目的といってもよい。

もちろん、EESは上記のような多くのデータを全ての旅行者(ただし、既述した通り非EU・シェンゲン加盟国以外の国出身の旅行者)から収集するために、時間を要する。その代替措置としてEESと同時に提案されたのが、RTPである。RTPは、事前に入国審査の一部を行いここで問題がないと判断された旅行者には、入国時に自動化ゲート利用を許可するなど、時間のかからない円滑な入国審査を実施するための制度案である。これによって、ビジネスマンや投資家などEUに経済上の利益をもたらすような人々の入国の活発化を期待していると考えられる。

欧州委員会の目的は、スマート・ボーダー・パッケージの実施によって、テロリストや国際犯罪者を域内に入れない強固な国境を保ちつつ、円滑な入国手続きを行う「バランス」のとれた出入国管理行政を実現することである。

しかしながらこの「バランス」は多大な投資と個人情報の犠牲の上に成り立っており・・・

・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol39.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI ワークショップ「EU 基本権憲章と構成国への適用可能性」

日時: 2014年10月17日(金) 14:40-16:10

場所: 一橋大学国立東キャンパスマーキュリータワー5階 EUSI 事務局会議室 3503

言語: 英語

参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: 「EU 基本権憲章と構成国への適用可能性: 単一化または連邦化への道？」

"The EU Charter of Fundamental Rights and Its Applicability to the Member States - A Step towards Unitarisation or Federalisation?"

フェルディナンド・ヴォレンシュレーガー (ドイツ・アウグスブルク大学教授)

司会: 中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 執行委員)

2. DESK 欧州研究セミナー「ヨーロッパのデモクラシーを再考する」

(東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター主催・EUSI 共催)

日時: 2014年10月22日(水) 17:00-19:00

場所: 東大駒場キャンパス 18号館4階 コラボレーションルーム1

書評: 網谷龍介他編『ヨーロッパのデモクラシー』第2版(ナカニシヤ出版、2014年)

参加者

著者: 網谷龍介 (津田塾大学教授)

討論者1: 河崎健 (上智大学教授)

討論者2: 高島亜紗子 (日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院博士課程)

司会: 森井裕一 (東京大学准教授、ドイツ・ヨーロッパ研究センター長)

<http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/index.html>

3. EUSI シンポジウム「EU 環境法における現代的課題」

日時: 2014年10月28日(火) 10:50-16:50

場所: 如水会館3F「富士の間」(東京都千代田区一ツ橋2丁目1-1)

言語: 英語 (日英同時通訳あり)

参加: 事前登録が必要です。

1. 名前、2. 所属、3. レセプションの出欠をご記入の上、10月21日(火)までに EUSI 事務局 (hit-u@eusi.jp) までメールでお申し込み下さい。

問い合わせ先: EUSI 事務局 TEL:042-580-9117

開場 10:20 開始 10:50

10:50-11:10 開会挨拶、趣旨説明(EU 環境法の発展)
Uli Wienrich (駐日 EU 代表部 貿易担当第一書記)
中西優美子 (一橋大学教授)

11:10-12:00 基調講演
「構成国における国内秩序における EU 環境法の実施: 挑戦と達成」
Alexander Proelss (ドイツ・トリア大学教授)

12:00-12:30 コメント
高村ゆかり (名古屋大学教授)、Andrea Ortolani (一橋大学非常勤講師)

12:30-13:50 昼食

13:50-14:20 「気候変動政策と WTO との整合性」 森田清隆 (経団連主幹)
14:20-14:50 「オース条約と環境影響評価指令」 南諭子 (津田塾大学准教授)
14:50-15:20 「EU 水管理と非 EU 構成国」 佐藤智恵 (明治大学専任講師)

15:20-15:40 休憩

15:40-16:10 「生物多様性と生息地指令」
Sara De Vido (イタリア・サ・フォスカリ・ヴェニス大学准教授)
16:10-16:50 「福島後の原子力安全と原子力損害補償の課題と見通し」
川崎恭治 (一橋大学教授)

4. EUSI ワークショップ「EU 環境法の原則: 評価」

日時: 2014年10月30日(木) 10:35-12:05

場所: 一橋大学国立東キャンパスマーキュリータワー5階 EUSI 事務局会議室 3503

言語: 英語

参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: 「EU 環境法の原則: 評価」
"Principles of EU Environmental Law: An Appraisal"
アレクサンダー・プレルス (ドイツ・トリア大学教授)

討論:

サラ・デ・ヴィドゥ (イタリア・サ・フォスカリ・ヴェニス大学准教授)(予定)
中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 執行委員)(司会兼)

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 執行委員)

「Google と EU の『忘れられる権利 (削除権)』」

【EU 法における先決裁定手続に関する研究(7)】

『自治研究』第90巻第9号(2014年9月) 96-107頁

【EU に関するニュース】

2014年8月18日 欧州委員会、ロシアの EU 域内産農産物禁輸措置を受け、域内青果物生産農家への支援措置導入

- 2014年8月18日 Eurostat、6月対外貿易収支(速報値)はユーロ圏18国で168億、EU28国で29億ユーロで共に黒字
- 2014年8月19日 EU及びゲオルギエヴァ欧州委員、世界人道デーに寄せて声明発表。EUの人道支援取組みを説明
- 2014年8月19日 バロゾ委員長、ポロシェンコ・ウクライナ大統領と電話会談。市民搬送の車列砲撃を非難
- 2014年8月20日 財務省、7月貿易統計(速報・通関ベース)は対EU輸出6470億円・10%増、輸入6966億円と赤字減
- 2014年8月20日 INGグループ、ロシアのEU域内産農産物禁輸措置でEUが失う生産は年間67億ユーロと試算
- 2014年8月21日 EU報道官、イスラーム国による米国人ジャーナリストJ・フォーリー氏殺害を非難する声明
- 2014年8月22日 ドラギ ECB 総裁、米シンポジウム講演にて、ECBは追加刺激策を講じる用意があると言及
- 2014年8月22日 WTO紛争処理小委員会、アルゼンチンの自動車等輸入制限に関するEU・日・米の主張認める判断
- 2014年8月22日 露の人道支援トラック約280台、国境検査なくウクライナ入境。EU、露の国境侵犯非難する声明
- 2014年8月25日 バロゾ委員長、ズン・ベトナム首相との首脳会談で、4億ユーロの対越インフラ整備支援表明
- 2014年8月25日 ポロシェンコ・ウクライナ大統領、議会解散の大統領令に署名。10月26日に総選挙実施
- 2014年8月26日 露・ウクライナ首脳会談。アシュトン上級代表らも一部参加。ウクライナ情勢をめぐる応酬
- 2014年8月26日 バルス第2次内閣改造。オランダ大統領の緊縮財政批判のモンブール経財相ら3閣僚を更迭
- 2014年8月27日 EU、ガザの停戦合意を受け、エジプトの仲介への賞賛やハマスの武力停止など求める声明
- 2014年8月28日 欧州委員会、ロシアのEU域内産乳製品禁輸措置を受け、特定乳製品を民間在庫補助対象に指定
- 2014年8月29日 バロゾ委員長、プーチン露大統領との電話会談で、ロシア軍のウクライナ侵入を非難
- 2014年8月29日 EU・露エネルギー閣僚会談。ロシアの天然ガス供給再開に向けウクライナと暫定合意促す
- 2014年8月29日 EU報道官、日本での2名の死刑執行に対する遺憾と死刑制度廃止を求める声明
- 2014年8月29日 Eurostat、7月失業率(季節調整済)はユーロ圏18カ国で11.5%、EU28カ国で10.2%と共に前月同
- 2014年8月29日 Eurostat、8月インフレ率(速報値)はユーロ圏18カ国で前年同月比0.3%と約5年ぶりの低水準
- 2014年8月30日 欧州理事会、トusk・ポーランド首相を新常任議長、モゲリーニ外相を新上級代表に選出
- 2014年8月30日 欧州理事会、ウクライナ情勢に関し停戦・国境管理・捕虜開放要請、必要なら追加制裁で合意

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、国際教養大学の堀井里子講師に執筆して頂きました。EUにおける国境管理についての取組みをわかりやすく解説して頂いています。域内の国境管理についてはシェンゲン条約がよく知られていますが、域外国境の管理については比較的紹介されることが少なく、その意味からも非常に参考になる論稿かと思えます。

エッセイの最後に言及されているように、こうしたEUの試みは、今後の日本の出入国管理のあり方を考える上でも非常に示唆に富むものですし、同時に、近年の目覚ましい情報技術の発達とその利用の仕方を改めて考える契機になるかと思えます。

先日、仙台の大学で集中講義を行ってきましたが、若い学生諸君の間では、EUや欧州についての知識や関心がまだまだ十分ではないようです。もっとも、多様な観点からわかりやすく話をすると、急速に興味が高まってくる様子を

感じることができます。

EU がこれまで行ってきた、そして現在進めている様々な試みは、日本の社会が取り組まなければならない課題と重なっており、日本の進路を考える上で大いに参考になるということを、多くの人に知ってもらいたいと思います。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン 編集担当)

8月30日欧州理事会で、トウスク・ポーランド首相が次期欧州理事会常任議長に、モゲリーニ外相が次期 EU 外務・安全保障政策上級代表に指名されました。特にモゲリーニ女史は41歳の若さながらレンツィ伊内閣の外相を務めており、今後5年間 EU の外交・安全保障政策を推進する重責を担うことになります。これで次の欧州を牽引する陣容が徐々に明らかとなってきました。欧州委員長はバローゾ委員長→ユンカー委員長、欧州理事会常任議長はファン＝ロンパイ議長→トウスク議長、EU 外務・安全保障政策上級代表はアシュトン上級代表→モゲリーニ上級代表、欧州議会議長はシュルツ議長(初の再任)、また EU ではありませんが先日首脳会合を行った NATO も事務総長がラスマセン事務総長→ストルテンベルグ事務総長(前ノルウェー首相)へと、この秋から冬にかけて一気に替わります。さらにユンカー次期委員会の各欧州委員も、本日水曜日に発表されるとアナウンスが出ており、本メールマガジン配信直後に次の5年間の EU を担う陣容がほぼ明らかになるでしょう。

そんな折に偶々同様のタイミングですが、駐日 EU 大使と公使も交代の時期を迎え、大使はシュヴァイスグート大使からイステイチョアニア＝ブドゥラ大使、公使はコリンズ公使からジョナサン・ハットウェル公使へと、それぞれ新しい EU の代表を日本は迎えることになります。

新しい人々を迎える一方で、去る人々を振り返るというのもまた学問的には重要な作業となると思います。10年間のバローゾ委員会の歩みと功績をいずれまとまって検証すべき時が来ることになるでしょう。次代を担う人々は、先人たちの積み重ねてきた業績や問題を引き継ぎつつ、その次の世代に繋げてゆく何かを遺してゆくこととなります。新しい皆様を迎える我々も期待と関心を抱きつつこれからの関係づくりを楽しみにしています。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
